日本在宅栄養管理学会誌 Vol.7 No.2

訂正とお詫び

日本在宅栄養管理学会誌 Vol.7 No.2 小渕智子先生ご執筆の特集『新型コロナ禍における在宅療養支援診療所の取り組みと重症心身障がい児の栄養管理』(p.125)、において、誤りがありました。

ご執筆いただいた小渕智子先生ならびに関係各位にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正し深くお詫び申し上げる次第でございます。

誤

3）事例紹介

当院が訪問診療している患者の15%(約30名)は重症心身障がい児者である。約10名の患児へは訪問栄養食事指導を実施している。重症心身障がい児(者)は、肺など呼吸器の疾患の患者が多く、感染リスクが高いため、4月から2ヶ月間は電話での栄養指導を継続した。

新型コロナ禍で、環境変化のため体調不良となった4歳の男の子のお母さんと一緒に栄養の改善に取り組んだ事例を紹介する。

2歳1ヶ月から介入していた患児(新生児呼吸障害、気管切開術後状態、胃瘻造設状態。夜間、在宅呼吸器を使用している)で、母親と二人暮らし。病名は新生児呼吸障害、気管切開術後状態、胃瘻造設状態。一日中、在宅呼吸器を使用している。栄養摂取は、胃瘻から医療用栄養剤エネーボとミキサー食を注入している。経口摂取は、口周りや口腔内が敏感なため、食べる量が少なく、食事形態はミキサー食から進まなかった。最近では、粒があるものを食べる、スプーンを持って食べる、コップでお茶が飲めるなど少しずつ出来る事が増えた。

正

3）事例紹介

当院が訪問診療している患者の15%(約30名)は重症心身障がい児者である。約10名の患児へは訪問栄養食事指導を実施している。重症心身障がい児(者)は、肺など呼吸器の疾患の患者が多く、感染リスクが高いため、4月から2ヶ月間は電話での栄養指導を継続した。

新型コロナ禍で、環境変化のため体調不良となった4歳の男の子のお母さんと一緒に栄養の改善に取り組んだ事例を紹介する。

2歳1ヶ月から介入していた患児(新生児呼吸障害、気管切開術後状態、胃瘻造設状態。夜間、在宅呼吸器を使用している)で、母親と二人暮らし。栄養摂取は、胃瘻から医療用栄養剤エネーボとミキサー食を注入している。経口摂取は、口周りや口腔内が敏感なため、食べる量が少なく、食事形態はミキサー食から進まなかった。最近では、粒があるものを食べる、スプーンを持って食べる、コップでお茶が飲めるなど少しずつ出来る事が増えた。

Presented by Medical*Online